

事業番号	09 03 04	事業改善シート（令和2年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	農業改良普及事業	部局	農政部	課・室	農業技術課		
		実施期間	S23 ~	E-mail	nogi@pref.nagano.lg.jp		
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)							
8つの重点目標	県民の豊かさ全国トップレベルを維持						
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進	3-7 先端技術の積極的な活用・導入					

1 事業の概要

事業の現状・目指す姿 (予算編成時)	【現 状】
	○農業者に接し、新品種・新技術の実証展示ほを活用した生産指導や経営改善指導等に関する普及活動を通じて、自主的に課題解決できる農業者を育成し、農業・農村の持続的な発展を図っている。 ○人・農地プランづくりや農業の6次産業化支援等、地域の新たな課題の解決に向けた普及活動を実施。 ○食品企業等の実需者ニーズを的確に把握した契約取引を行う新たな産地づくりを推進するなど、時代の変化に対応した普及活動を展開し、農業者の所得向上を図っている。
	【目指す姿】
	○高度化する農業技術や環境と調和のとれた農業生産、多様化する流通・消費形態、高度情報化等に対応した農業経営者が地域で活躍するとともに、農業・農村を担う組織づくりがなされ、地域農業の振興と活性化が図られている。 ○食品産業界が求める農産物を生産し契約取引を行う農業者が増加し、産地が育成され、農家所得の向上が図られる。

指標の状況及び目標値 [↑:改善、↓:悪化、→:変化なし]							区分(単位:千円)			
No	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	目標値	達成状況	事業コスト	R1年度	R2年度	
1	指標平均進捗率(%) (県食農計画の指標のうち、普及事業に係る4項目及び普及活動重点課題の7項目、計11項目の平均)	108	100	↓	98	↓		前年度繰越		
2	<11項目の主な指標1> 新規就農者数(名)	216	190	↓	173	↓		現計予算	71,927	60,836
3	<11項目の主な指標2> 1等米比率(%)	97	95.9	↓	94.6	↓		合計(A)	71,927	60,836
4	<11項目の主な指標3> 県オリジナル果樹品種の栽培面積(ha)	60	132	↑	223	↑		うち一般財源	38,462	29,008
5	新規契約取引成約件数(件)	65	72	↑	48	↓		決算額(B)	56,125	44,484
							職員数(人)	186	186	

成果指標設定理由	①第3期食農計画の目標達成に向けて、農業農村支援センターが重点的に取り組む指標の平均進捗率を指標として設定。 ②～④ ①のうち、普及活動での重要度が高い新規就農者数の確保(第3期食農計画の達成指標数値)、1等米比率全国トップクラスの維持、県果樹試験場開発のオリジナル品種(シナノリップ、クイーンルージュ®)の面積拡大を指標として設定。 ⑤契約取引を行う新たな産地づくりを進めるため、新規契約取引成約件数を指標として設定。
達成状況の分析	①目標指標である新規就農者数、地域振興花き品目生産量の実績減などにより、平均進捗率は目標を下回った。 ②他産業における雇用情勢との競合により新規就農者数が減少したことで、目標を下回った。 ③収穫期の天候不順や台風等により適期収穫ができず目標を達成できなかった。 ④品種検討会の開催等により栽培面積が大幅に増加し、目標を上回った。 ⑤新型コロナウイルス感染症の影響で実需者からの要望や対面での商談機会が減少したため、目標を達成できなかった。
主な取組	○新たな経営改善手法の導入 ・7戸のモデル経営体でトヨタ式カイゼン手法に取組むとともに、カイゼン塾を3回実施し、各農業農村支援センターにおいて現地テーマに取り組むことで農業者の経営改善を支援 ○新規就農の支援 ・農業大学校研修部で就農希望者向けに就農体験研修、新規就農里親前基礎研修、新規就農里親研修を実施し、のべ95名が参加 ○技術指導による1等米比率全国1位の達成のための活動 ・品質低下を招く斑点米の発生を防止するため、カメムシ対策等の技術指導を実施 ・施肥改善、高温障害対策、適期収穫による品質向上の推進 ○県オリジナル果樹品種の作付促進 ・県オリジナル品種であるリンゴ「シナノリップ」、ブドウ「クイーンルージュ®」等の作付拡大による果樹経営体の収益性向上を図るため、品種検討会を開催 ○スマート農業の推進 ・水田センサー90台のお試し導入を実施、アンケート調査により10経営体で導入意欲を確認 ・農業農村支援センター等にタブレット端末(35台)を配備し、先端技術に対応した指導を実施

2 今後の事業の方向性

	課 題 等	今後の方向性
今後、事業をどのようにしていきたいか	農業者の所得向上、地域の担い手育成のため、農業関係試験場と連携した新技術・新品種の普及や農業経営の支援が必要。 コロナ禍においても、多様化する実需者ニーズに対応し、経営に活かせる農業者及び産地の育成が必要。	AI・ICT等の先端技術を積極的に活用した普及指導活動を推進、スマート農業やカイゼン手法の導入推進を図る。 地域で求められる技術の推進や地域の合意形成、新規就農者の育成や自然災害への対応等の取組みを強化する。 Web等を用いた商談会や個別商談などにより、実需者とのマッチングを支援し、新規契約取引件数の目標達成ため、活動を行う。

事業番号 09 03 04 細事業一覧（令和2年度実施事業分） 当初要求 当初予算案 補正予算案 点検

事業名	農業改良普及事業	部局	農政部	課・室	農業技術課
-----	----------	----	-----	-----	-------

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算
1	農業改良普及運営費	38,011 千円	37,902 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和2年度 実施内容(実績)
1	農業改良普及運営費	直接	県下10所の農業農村支援センターに普及指導員を配置して地域における課題を解決するため、普及活動を展開した。

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算
2	農業改良普及事業費	17,399 千円	6,053 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和2年度 実施内容(実績)
1	農業改良普及事業費	直接	担い手の育成・確保や農業関係試験場が開発した新技術・新品種の普及、農業者の経営改善など、協同農業普及事業の実施に関する指針に基づいた普及活動（研修会1,008回、講習会1,543回）を展開した。また、JA等の関係機関と連携した指導体制の整備を図り、本県農業のスマート化を加速させた。

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算
3	中山間地域農産物橋渡し支援事業	715 千円	529 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和2年度 実施内容(実績)
1	中山間地域農産物橋渡し支援事業	直接	契約取引を志向する農業者等を対象とした農産物取引等に関する基礎知識習得研修会等を1回開催、伝統野菜、新品目・新品種等の栽培技術指導及び展示ほを4カ所設置。